

JAERA NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構

ニュースレター 2026年 7月号



連 載

自動車リサイクル業界を 担うホープ(27)

名前:中岡 唯斗 (なかおか ゆいと) (18歳)

所属:株式会社ヤツヅカ
(愛媛県伊予市)

担当:生産課

特技:サッカー

MBTI :主人公型(思いやりと責任感を持ち、
周囲を前向きに導きながら信頼関係を築けるタイプ)

— 仕事で誰にも負けない部分

コツコツと継続して努力すること

— この業界の魅力を一言で

限りある資源を大切に活かしながら、
環境にも社会にも貢献できること

— 将来の業界への期待

環境への関心が高まる中で、自動車リ
サイクル業界は今後さらに重要性が増
し、持続可能な社会づくりに大きく貢
献していくこと

※MBTIとは認識・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめるテストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイドルのプロフィールなど様々な分野で利用されています。

INDEX

【連載】自動車リサイクル業界を担うホープ / 巻頭言 ——— P.1

2026年度 JAERA 定時社員総会を取材! ——— P.2 P.3

ワイヤーハーネス共同出荷事業 / 自動車リサイクル士の再案内 ——— P.4

5月新車販売台数・使用済自動車発生台数・輸出返還台数 ——— P.5

鉄スクラップ最新情報 ——— P.6

活動予定・お知らせ / 編集後記 ——— P.7

巻 頭 言

広報部会

八束 和志

会員の皆様、はじめまして。株式会社ヤツヅカの八束和志です。今回が初めての巻頭言執筆となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

現在、自動車リサイクル業界は、使用済自動車発生台数の減少や制度見直しへの対応など、大きな転換期を迎えています。しかしその一方で、循環型社会の実現や資源循環の推進において、私たちの果たす役割はますます重要になっています。このような時代だからこそ、全国の仲間が情報を共有し、知恵を出し合いながら連携を深めていくことが業界の発展につながると考えています。本ニュースレターが会員の皆様にとって、ヒントや新たな気づきを得るものになれば幸いです。

微力ではございますが、今後ともよろしくお願いいたします。

02

2026年度JAERA定時社員総会を取材！
制度見直しと業界連携の“いま”が見えた一日

会場を新たに、華やかに開催 “いまのJAERA”を感じる一日に

6月22日（月）、JAERAは2026年度定時社員総会を、アートホテル日暮里ラングウッド（東京都荒川区）で開催されました。今回から会場が変わり、例年とはひと味違う華やかさと高揚感に包まれた一日となりました。全国から会員が集まり、総会、会員交流会、懇親会を通じて、JAERAの現在地とこれからを共有する大きな節目の場となりました。



新体制がはじまる



社員総会の様子

社員総会では、第21期（2025年度）事業報告・収支報告、第22期（2026年度）事業計画案・収支計画案、理事選任について審議が行われ、各議案はいずれも承認されました。これを受け、JAERAは新たな役員体制で2026年度をスタートしました。新体制のもと、業界を取り巻く環境変化に対応しながら、さらなる発展と連携強化に取り組んでいく予定です。

JAERA新体制

役 職	氏 名	役 職	氏 名
代表理事	石井 浩道	専務理事	阿部 知和
副代表理事	永田 則男	副代表理事	木内 雅之
副代表理事	種谷 謙一	理事・ブロック長会議長（東北ブロック長）	平地 健
理事・北海道ブロック長	高橋 建作	理事・関東ブロック長	有原 良
理事・中部北陸ブロック長	岡野 功	常務理事・近畿ブロック長	川島 準一郎
理事・中国四国ブロック長	八束 和志	理事・九州ブロック長	森田 光弘
理事・沖縄ブロック長	松田 和生	理事・広報部会長	田村 幸男
理事・リサイクル技術部会長	佐々木 健二	理事・未来部会長	吉岡 篤史
常務理事	高橋 稔	常務理事	石井 洋
監事	石上 剛	監事	埜村 岳史

会員交流会では、制度見直しの“いま”を共有

総会後に行われた会員交流会では、石井代表理事より「自リ法20年目見直しとJAERAの提言」について説明がありました。制度見直しの議論が本格化するなか、JAERAが合同審議会などを通じて現場の課題や業界の声を継続的に発信してきたこと、そしてその問題意識が国の報告書案の方向性にも重なるかたちで整理されつつあることが共有されました。

続いて、経済産業省 製造産業局 自動車課 自動車リサイクル室長の宮越 朗 様より、「自動車リサイクル制度を巡る諸課題と政府の取組の方向性について」の説明がありました。使用済自動車の減少、不適正事業者対策、リユース部品の流通促進、再生プラスチックやLiB対応など、いまの業界に直結するテーマについて、国の考え方を直接聞くことができる貴重な機会となりました。

さらに、阿部専務理事からはワイヤーハーネス共同出荷事業について説明が行われました。使用済自動車由来の銅資源を国内で循環させる新たな取組みとして、参加形態やスキーム、価格体系の考え方も紹介され、会場の関心の高さがうかがえました。

懇親会は大いに盛況 ご来賓の方々に、JAERAの存在感と心強さを実感

その後の懇親会では、外務大臣・衆議院議員の茂木 敏充 様をはじめ、経済産業省 大臣官房審議官の田中 一成 様、環境省 大臣官房審議官の成田 浩司 様、(一社)日本自動車工業会の嶋村 高士 様、(公財)自動車リサイクル促進センターの永井 辰幸 様、(一社)自動車再資源化協力機構の樋口勝敏様など、多くのご来賓からご挨拶をいただきました。

これだけの方々がJAERAの場に集い、言葉を寄せられたことは、いまJAERAが業界内外で果たしている役割の大きさを物語っています。会場では、全国から集まった会員同士が交流を深め、各地の近況や制度見直しへの期待、現場の悩みや今後の展望まで、あちこちで話が尽きない様子が見られました。



茂木外務大臣

AVIC（自動車リサイクル4団体の連携強化）について

また、業界内の連携強化についても言及がありました。日本自動車リサイクル部品協議会(リ協)、日本トラックリファインパーツ協会、東日本自動車解体処理協同組合、そしてJAERAの4団体で進めるAVICは、4団体がより足並みをそろえ、業界が抱える諸課題への対応力を高めるとともに、国や関係先に対して現場の声をより力強く届けていくことを目指す取り組みとして紹介されました。それぞれの団体が持つ立場や強みを持ち寄りながら、業界全体で課題解決に向き合っていく枠組みです。



4団体が並ぶ

リ協とJAERAの今後のあり方について

一方で、リ協とJAERAの今後のあり方については、AVICとは別に、これから協議を始めていく段階にあることにも触れられました。現時点で具体的な合併の内容や時期が決まっているわけではなく、今後、業界にとってより良い形を模索するための話し合いを進めていくということが示されました。

このあたりは関心も高いテーマですが、AVICによる4団体の連携強化と、リ協とJAERAの今後の協議については、JAERAニュースレターでも次号お伝えする予定です。

JAERAが、業界の声を届ける中心へ

自動車リサイクル法施行20年目の見直し、資源循環の高度化、リユース部品活用の拡大、LiB対応、人材育成。業界を取り巻くテーマは年々大きく複雑になっています。そうしたなかで、現場の声を集め、行政や関係団体に届け、業界全体の方向性を示していくJAERAの役割は、これまで以上に大きくなっています。

今回の総会は、そのことを会員の皆様の実感できる一日でした。会場の雰囲気、来賓の顔ぶれ、交流会の内容、懇親会の盛り上がり——どれをとっても、JAERAが確かな存在感を持って前に進んでいることを感じさせる総会だったのではないのでしょうか。

03

JAERA ワイヤハーネス共同出荷事業が
7月からスタートします！

ワイヤーハーネス共同出荷事業が、7月からいよいよ開始となりました。

事業の背景と目的



事業の背景

使用済自動車由来ワイヤーハーネスの約80%が海外に流出している現状
国内での銅資源循環(Car to Carリサイクル)が十分に確立されていない
資源価格の高騰や経済安全保障の観点から、国内循環体制の構築が急務
被覆材の適正処理(破碎・焼却)に対する透明性確保とコンプライアンスの重要性

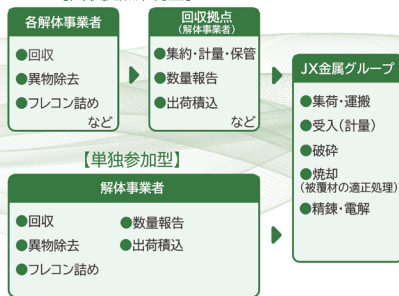
事業の目的

自動車由来の銅を電気銅99.99%へ再資源化し、「Car to Carリサイクル」を確立する
解体事業者が規模に依らず、透明性のある考え方で売却できる環境を整備する
被覆材の適正処理をスキーム内で担保し、作業負担とリスクを軽減する
業界全体が主導となる、持続可能な資源確保モデルを構築する

回収したハーネスの流れ



【回収拠点集約型】



解体事業者の皆様は、
・回収拠点を利用する「回収拠点集約型」
・1社で集約する「単独参加型」
の2パターンから参加形態を選べます。

ガイドライン抜粋

本事業はJAERA会員限定の取組みで、使用済自動車由来ワイヤーハーネスに含まれる銅資源を国内で循環させ、Car to Carリサイクルの実現を目指すものです。

これまで、使用済自動車由来のワイヤーハーネスの多くは海外へ流出していましたが、本事業では、それらを国内で適正に処理・精錬し、再び自動車部材へと還流させることで、持続可能な資源循環モデルの構築を進めてまいります。資源価格の高騰や経済安全保障への関心が高まるなか、国内で銅資源をしっかりと循環させていくことは、業界にとっても大きな意義のある取組みです。

参加形態については、回収拠点を利用して集約する方式と、自社で集約して出荷する方式の2パターンを用意しており、各事業者の状況に応じた参画が可能です。

本事業については、すでに参加ガイドラインを整備しており、参加形態、対象物、異物除去基準、荷姿・物流ルール、価格体系など、実務に必要な内容をまとめています。

参画をご検討の方、詳細ガイドラインをご希望の方は、JAERA事務局までお問い合わせください。

なお、ガイドライン等の詳細につきましては、会員向けメールマガジンでも順次ご案内してまいりますので、あわせてご確認ください。

04

自動車リサイクル士 新規講習会 締切間近！

2026年度の自動車リサイクル士 新規講習会につきまして、当初7月13日(月)としていた申込締切を、急遽「7月22日(水) 必着」まで延長いたしました。

多くのお申込み・お問い合わせをいただいております。受講を検討されている方に、よりご参加いただきやすいよう受付期間を延長したものです。

本講習会では、自動車リサイクル法の基礎をはじめ、引取、フロン類回収、解体、破碎、安全作業、衛生管理など、現場で必要となる知識を体系的に学ぶことができます。新入社員の育成はもちろん、実務担当者や管理者の知識確認・レベルアップの機会としてもおすすすめです。

講習はWEBオンデマンド配信、修了試験は会場で実施する形式となっております。

受講を希望される方は、この機会にぜひお申込みください。

■申込方法・詳細は [JAERAホームページ](#) から

自動車リサイクル士
テキスト

jaera
一般社団法人 日本自動車リサイクル機構

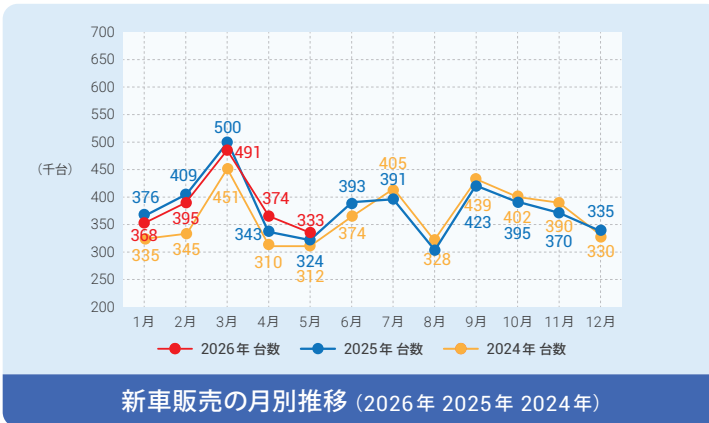
05

5月新車販売・使用済自動車発生台数・中古車輸出に係る返還台数

2026年5月の台数動向

— 使用済、中古車輸出は前年を大きく割る、新車販売は前年越え

■2026年5月度 新車販売台数 332,997台（前年同月比102.8%）

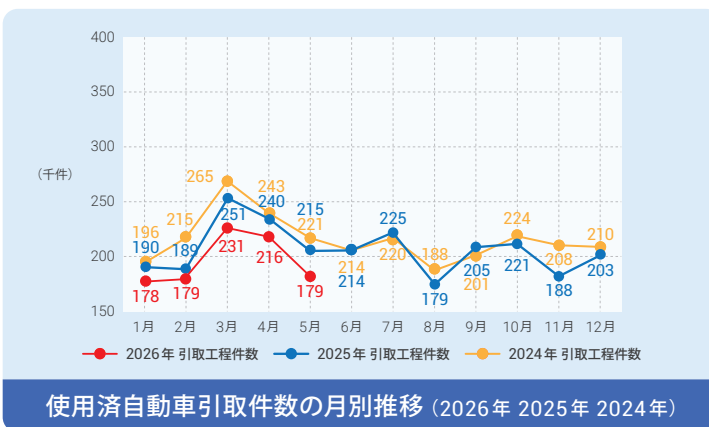


過去の新車販売台数推移		
年累計	台数(台)	前年比(%)
2026年(5月まで)	1960,306	100.4
2025年	4,565,777	103.3
2024年	4,421,494	92.5
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■使用済自動車引取（電子マニフェスト）実施状況

2026年5月度 引取工程 179,068件（前年同月比83.4%）

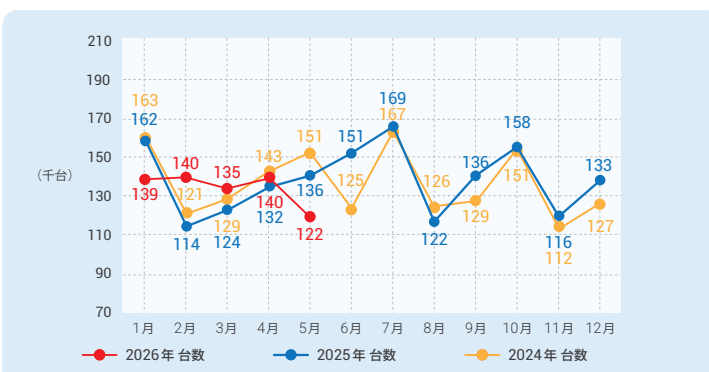


過去の使用済自動車引取台数推移		
年累計	件数(件)	前年比(%)
2026年(5月まで)	982,767	90.7
2025年	2,519,062	97.2
2024年	2,607,112	95.5
2023年	2,731,329	98.6
2022年	2,769,122	87.5

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

■中古車輸出に係る返還台数※

2026年5月度 122千台（前年同月比89.7%）



※中古車の輸出に伴い、預託していたリサイクル料金を返還した台数

過去の中古車輸出に係る返還台数推移		
年累計	台数(千台)	前年比(%)
2026年(5月まで)	676	100.7
2025年	1,656	100.7
2024年	1,644	111.0
2023年	1,481	115.7
2022年	1,281	95.5

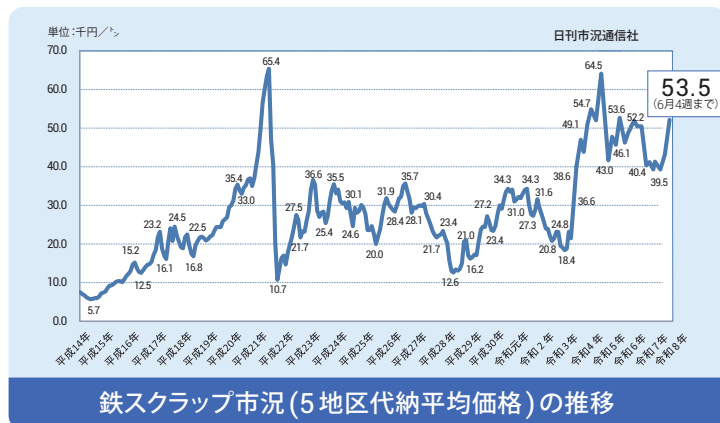
※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

06

鉄スクラップ最新情報

[提供：日刊市況通信社]

6月第4週（26日）の鉄スクラップ動向



6月26日の国内スクラップ炉前実勢価格（中心値）

		H2	気配
関東	北関東	53,500 ~ 55,000	様子見
	南関東	53,500 ~ 55,000	様子見
	浜値	52,500 ~ 53,500	軟調
名古屋		53,000 ~ 54,000	様子見
関西	大阪	53,500 ~ 54,500	様子見
	姫路	53,500 ~ 55,500	様子見

米国の鉄スクラップ輸出市況、トルコの輸入価格値下がりの影響で軟調化

米国の鉄スクラップ輸出市況が軟調化している。16日に米国とイランが戦争終結に向けた覚書合意に署名したことを受け、燃料価格が紛争前の水準に調整されるとの見方が広がっていることなどから主要仕向け先のトルコの輸入価格が値下がりしたためだ。

直近の米国玉の成約は、19日付でHMS1&2 (80:20) がCFR388ドルで決まったもの。前回の同品種の成約からは18ドル値下がりした。その後も欧州玉の新規成約はさらに下押しの動きとなっており、「この先はCFR388ドルでも決まらないのではないか」（米国シッパー筋）との声が聞かれる。

トルコ輸入相場が下落傾向にあるため、米国東海岸の輸出相場も同様に下落。24日付のニューヨークの輸出向けHMS1&2 (80:20) の中心値はFOB343ドルどころ、シュレッダーの中心値はFOB363ドルどころで、いずれも前週比で17ドルの下落となった。

こうした動向から、国内向けの販売価格のほうが輸出相場よりも高い状況になっており、メーカー向け販売に目を向けるヤード業者も少なくない。直近成約からの推定ではシュレッダーの輸出価格はCFR408ドル前後となる。これに対し、シカゴのシュレッダー相場は足元で430ドルを保っており、国内向けの割高感がより鮮明となっている。

関東 東京製鉄は6月26日から東京湾岸サテライトヤードで値下げ

東京製鉄は6月26日から東京湾岸サテライトヤード（千葉県船橋市）の鉄スクラップ購入価格を改定し、新断を1トンあたり1,000円、その他品種を500円値下げした。宇都宮工場を含む他拠点は据え置いた。東京湾岸SYの値下げは、昨年7月10日以来およそ11カ月半ぶり。関東地区のH2炉前実勢価格は53,500～54,000円中心、高値54,500～55,000円見当。H2浜値は52,500～53,500円中心。浜値との差がやや拡大した。

東海 様子見商状の推移続く 他地区で一部下落し先安観が台頭

東海市場の鉄スクラップ市況は様子見商状の推移を続けている。海外・輸出市場が軟調に推移しているほか、九州市場や関東の一部で値下がりしているが、東海市場の需要家筋は6月26日時点では購入価格を据え置いたまま慎重な購入姿勢を維持。ただ、一部だが国内他地区で値下がりする動きとなったことで、東海市場でも先安観が台頭している。H2炉前実勢価格は53,000～54,000円中心。6週間以上にわたって値動きが見られない。

大阪 入荷不安見られず外部環境難で保合い商状

大阪地区の鉄スクラップ市況は保合い商状にある。入荷不安は見られず、外部環境難から電炉側が引き合いをさらに強めてくる可能性は低い。地区内では6月23日から一部電炉筋が品種限定で買値を引き上げてきたように、全体の入荷を満たすにはいまだ至っていない。品種によっては週明けにかけても需給タイト化が残ると見られ、引き合いが一斉に緩まるような環境ではない。H2炉前実勢価格は、大阪が53,500～54,500円中心。

（※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、6月26日午後時点のもの）

07

▶ 樹脂破砕機等の導入補助金 二次公募のお知らせ

環境省の補助事業として、資源回収インセンティブ制度に参画中または参画予定の解体業者等を対象に、使用済自動車由来のプラスチック回収量の拡大や輸送効率向上を目的とした樹脂破砕機等の導入補助が実施されています。

対象となるのは、樹脂破砕機のほか、破砕設備と一体的に導入する洗浄設備、脱水・乾燥設備、磁選機、架台等です。導入をご検討中の会員の皆様は、ぜひご確認ください。

■二次公募の受付期間：2026年6月15日（月）～8月28日（金）17時必着。
※受付順に審査・採択が行われ、予算上限に達した時点で公募終了となります。

■詳細は環境省HPもしくは（公財）廃棄物・3R研究財団HPまで
※申請窓口は、（公財）廃棄物・3R研究財団です。



【出典：環境省HP】

編集後記



世界中が待ちに待ったFIFAワールドカップが始まりました。日本代表は初戦で強豪オランダと引き分け、日本中が沸きました。この試合を解説した元日本代表の本田圭佑氏は、「日本が世界との差を縮めたのは、サッカーがコモディティ化したからなんです」と話していました。理由として、「今の子どもたちは毎日、最高レベルのプレーに1秒でたどり着ける」からだといいます。

幼少期から世界最高峰のプレーに日常的に触れられる環境が、自然とレベルアップにつながっているということです。コモディティ化とはマーケティング用語ですが、今の自動車リサイクル業界、とりわけリサイクル部品販売の分野でも、同じことが言えるのではないのでしょうか。

そのような業界の中で、ときには組織や立場の違い、目先の利害に意識が向いてしまう場面もあります。しかし、「今、本当に力を注ぐべきことは何か」を考えたいものです。一人ひとりが業界全体の発展を意識し、ともに守り育てていくことが、結果として自分自身や家族、社員の安心した暮らしにつながっていくのではないのでしょうか。

広報部会長 田村 幸男

7 月の活動予定&取組み

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

- 7日（火） | J-FAR 事業 解体事業者実態調査 定例会（WEB）
- 8日（水） | 東北ブロック長会議（対面）
- 22日（水） | 自動車リサイクル士新規講習会 申し込み締切り ※必着（7/13㍻切から延長）
- 24日（金） | 第4回広報部会（対面）
- 27日（月） | スクラップヤードに関する検討会 ※仮題（対面・WEB）
- 28日（火） | 自動車向け再生プラスチック市場構築のための産官学コンソーシアム（対面・WEB）

